

菊花賞

第82回菊花賞(GI)優勝馬タイトルホルダー



3000メートルの逃走劇。タイトルホルダーが最後の一冠奪取

影をも踏ませぬ逃走劇。さまざまな血のドラマが5馬身差の圧勝に結実した。

京都競馬場が整備工事中で、42年ぶりに阪神競馬場で行われた菊花賞。皐月賞馬エフフォーリアは天皇賞(秋)、日本ダービー馬シャフリヤールはジャパンC出走のため不在で、混戦模様の一戦に。僅差の1、2番人気は神戸新聞杯2着のレッドジェネシスと勝ち馬のステラヴェローチェ、3番人気には骨折から復帰したセントライト記念で3着だったオーソクレースが推された。

レースは、スタートから譲らぬ構えで先頭に立った4番人気タイトルホルダーの逃げで進んだ。

春は弥生賞ディープインパクト記念を逃げ切り、皐月賞2着、日本ダービー6着。しかし秋初戦のセントライト記念では1番人気ながら13着と大敗した。好位に控える競馬から直線で前が詰まった不完全燃焼の走りに、横山武史騎手は「前走がひどい競馬で、取り返したい思いがありました。今回は無理してでもハナにこだわりました」と、これが決意の逃げだったことをレース後に明かした。

ペースを落とさず強気に逃げ続けるタイトルホルダー。勝負所でいったん後続との距離は縮まったが、直線に向けてスパートすると再び引き離す。そのままオーソクレース、ディヴァインラヴ、ステラヴェローチェの激しい2着争いを5馬身後方に見ながら、独走でゴールを駆け抜けた。

菊花賞の逃げ切りは横山武史騎手の父・横山典弘騎手の1998年セイウンスカイ以来23年ぶり。史上4組目となる騎手の父子制覇を、快挙とともに達成した。

また栗田徹調教師は、開業11年目でJRA・GI初制覇。タイトルホルダーの母メーヴェは義父・栗田博憲元調教師のもとで調教助手をしていた頃の馬で、「義父からの贈り物かなと、込み上げてくるものがあります」と喜びを語った。

さらにタイトルホルダーの父ドラメンテは、この約2か月前、惜しまれつつ急逝。これが産駒の初GI制覇で、2015年に皐月賞と日本ダービーを制しながら骨折で3歳秋を全休した父の代わりに、最後の1冠を孝行息子が獲得した形に。まさに、さまざまな血のドラマが絡み合った菊花賞となった。

▶5馬身差以上の勝利は2013年エヒノフジメア以来8年ぶり9回目。



第82回菊花賞(GI)

10/24 阪神競馬場 3000m(芝・右)曇・良 18頭									
着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	タイトルホルダー	牡	3	57	横山 武史	栗田 徹	3:04.6	④	①①①①①
2	オーソクレース	牡	3	57	C.ルメール	久保田貴士	5	③	⑪⑪⑪⑩⑨
3	ディヴァインラヴ	牝	3	55	福永 祐一	斉藤 崇史	アタマ	⑥	⑥⑥⑥⑥⑥
4	ステラヴェローチェ	牡	3	57	吉田 隼人	須貝 尚介	ハナ	②	⑮⑮⑮⑮⑨
5	ディープモンスター	牡	3	57	武 豊	池江 泰寿	1 1/2	⑦	⑧⑨⑩⑪⑫
6	ヴェローチェオロ	牡	3	57	幸 英明	須貝 尚介	クビ	⑫	⑫⑫⑫⑫⑫
7	アリーヴォ	牡	3	57	M.デムーロ	杉山 晴紀	3/4	⑩	⑧⑨⑦⑦⑦
8	エアサージュ	牡	3	57	藤岡 佑介	池添 学	3/4	⑪	④④⑤④④
9	アサマノイタズラ	牡	3	57	田辺 裕信	手塚 貴久	アタマ	⑤	⑮⑮⑮⑮⑮
10	ヴィクティファルス	牡	3	57	池添 謙一	池添 学	3/4	⑧	⑧⑧⑦⑦⑦
11	セファアラジエル	牡	3	57	鮫島 克駿	高柳 大輔	1/2	⑦	②②②②②
12	ロードトゥフェイス	牡	3	57	丹内 祐次	尾形 和幸	1/2	⑮	⑫⑫⑫⑫⑫
13	レッドジェネシス	牡	3	57	川田 将雅	友道 康夫	1/2	①	⑮⑮⑮⑮⑮
14	モンテディオ	牡	3	57	横山 和生	四位 洋文	2	⑬	②③②③②
15	グラティアス	牡	3	57	松山 弘平	加藤 征弘	クビ	⑭	④④④④④
16	ヴァイスメテオール	牡	3	57	丸山 元気	岩戸 孝樹	2 1/2	⑨	⑭⑭⑭⑭⑭
17	ノースザワールド	牡	3	57	和田 竜二	大久保龍志	2 1/2	⑯	⑮⑮⑮⑮⑮
18	ワールドリバイバル	牡	3	57	津村 明秀	牧田 和弥	6	⑯	⑥⑥⑦⑦⑦

単勝 ③800円 複勝 ③290円 ⑯210円 ⑩480円 枠連(2-8) 1,600円
馬連 ③-⑯2,420円 馬単 ③-⑯5,220円 ワイド ③-⑯1,050円 ③-⑯2,590円 ⑪-⑯1,410円
3連複 ③-⑯-⑯14,610円 3連単 ③-⑯-⑯79,560円

ハロンタイム 12.5-11.1-11.5-12.1-12.8-12.6-12.8-14.3-13.1-12.6-12.4-11.7-11.5-11.4-12.2
通過タイム 600m ③35.1-800m ④47.2-1000m ⑤1:00.0-1200m ⑥1:12.6-1400m ⑦1:25.4-1600m ⑧1:39.7-1800m ⑨1:52.8-2000m ⑩2:05.4-2200m ⑪2:17.8-2400m ⑫2:29.5-2600m ⑬2:41.0-2800m ⑭2:52.4

優勝馬 **タイトルホルダー**
2018.2.10生 父ドラメンテ 母メーヴェ 母の父Motivator
新ひだか・岡田スタッド生産 馬主:山田 弘氏



▲最後の直線に向かう各馬。タイトルホルダー(帽色・黒)の脚色は衰えない。